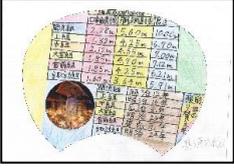


①事業実施報告書詳細

学校名 西尾市立一色南部小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
2	教室	○自分たちの住むまちである一色町の自慢を話し合い、町内には多くの大切なものがあることを再認識させる。そして、中でも『大提灯祭り』に焦点を当てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・一色町といえばウナギだよ。 ・カーネーションも有名だよ。 ・いろいろあるけれど、なんといっても、一色町といえば、大提灯祭りだよ。
4	高橋提灯 学びの館 諏訪神社	<p>○歴史のあるまちのお祭りである『大提灯まつり』について調べ学習を行おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行先で大提灯を修理した高橋提灯を見学する。 ・校区内にある大提灯祭りについての常設展示を行っている学びの館を見学する。 ・校区内にある大提灯祭りを挙げる諏訪大社を見学する。 	 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都の高橋提灯が修理のために一色町に泊まり込みで来て半年もかけて修理をしたんだ。 ・大提灯祭りは海魔の被害に困った人たちが、長野の諏訪大社にお願いして始まったお祭りなんだ。 ・昔は海魔の退治だったけど、今では、人々が協力して取り組むことが目的になったんだ。地元の特長のお祭りなんだ。
1	教室	○大提灯祭りについて調べたことを話し合おう		<ul style="list-style-type: none"> ・提灯は自分の町の自慢だったからどんどん大きくなっていったんだ。 ・大提灯祭りの見どころをうちわにして、観光客に大提灯祭りをPRしよう。

5	<p>教室</p> <p>諏訪大社</p>	<p>○調べたことをもとに祭りをPRしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祭りをPRするうちわをつくる。 <p>・大提灯祭り当日、お祭りの準備をする人たちの話を聞こう</p> <p>・大提灯祭り当日にうちわを配りながら、祭りの魅力をPRする。</p>	    	<ul style="list-style-type: none"> ・各組の大提灯の大きさやろうそくの大きさを表にして一目でわかるようにしよう。 ・大提灯はそれぞれの町の誇りだから、みんなが協力して守っているんだ。 ・大提灯は手作業であげているから、たくさんの方の協力が必要だね。 ・お祭りの説明をしながらうちわを配ったら、とても喜んでもらえたよ。 ・三重や東京、岐阜などの県外からもたくさんの方が大提灯を楽しみに来ていたよ。
1	教室	○大提灯祭りに参加した感想を交流しよう。		<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの観光客が全国各地から来ていて、本当にすごいお祭りだ。 ・支える人たちの熱い思いがあるからこそ、今まで続けてきたんだ。 ・これからも続けていくように私たちも支えていきたい。

②学習指導案

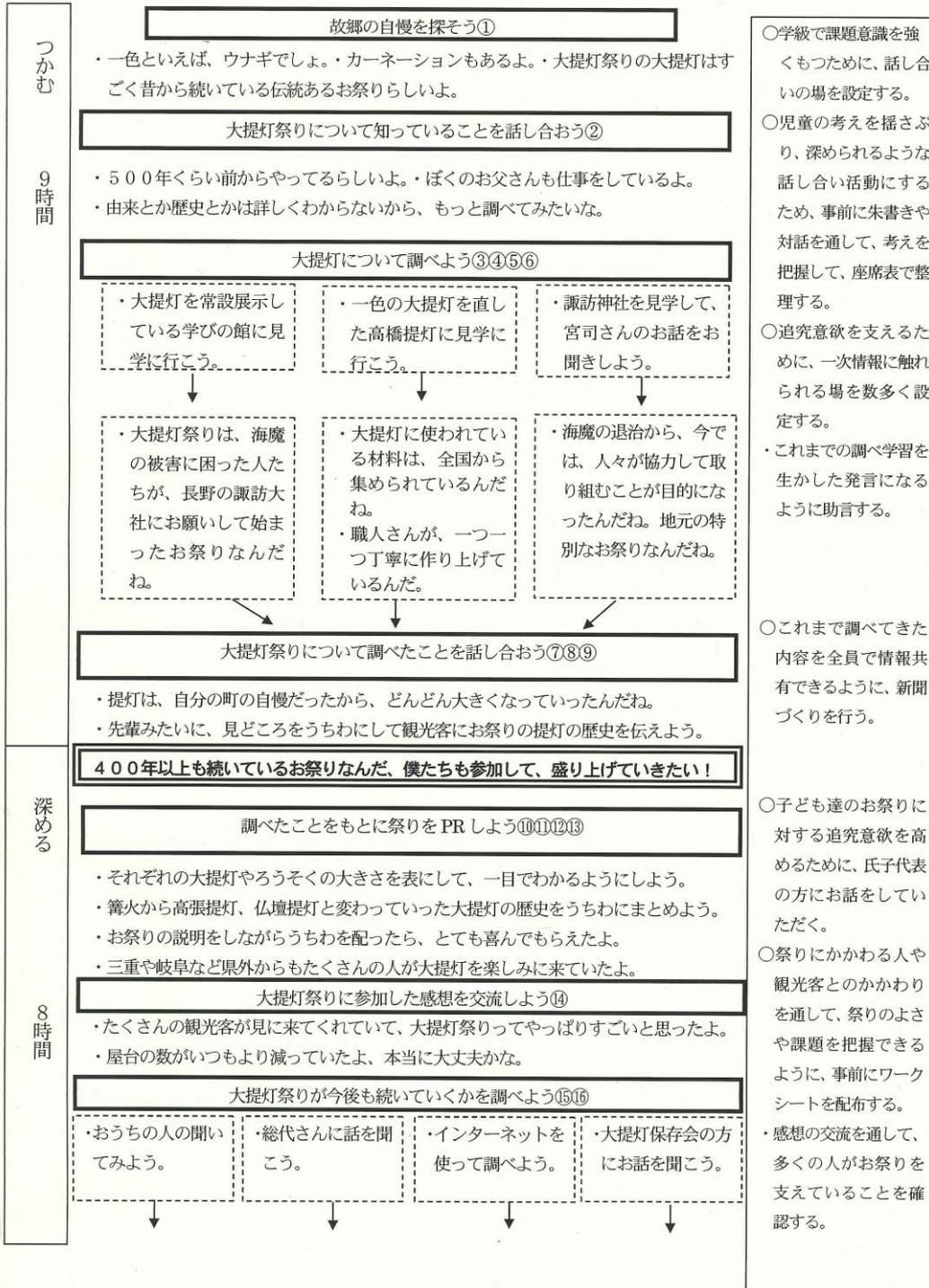
単元名 (全 時間)	故郷のほこり大提灯祭りのために 私たちができること ー調べてきたことをもとに大提灯祭りをPRしようー
学習のねらい	大提灯祭りについて調べたり、参加したりすることで、大提灯祭りの良さに気づき、故郷のために活動していこうとする。
学習内容	1 大提灯祭りについて調べ学習を行う。 2 大提灯祭りをPRするうちわをつくろう。 3 大提灯祭りをPRしよう。 4 大提灯祭りを継続していくために自分たちにできることを考えよう。

学習の流れ

単元の構想 (全25時間完了)

【学習活動の流れ】

【教師支援・留意点】



- 学級で課題意識を強くもつために、話し合いの場を設定する。
- 児童の考えを揺さぶり、深められるような話し合い活動にするため、事前に朱書きや対話を通して、考えを把握して、座席表で整理する。
- 追究意欲を支えるために、一次情報に触れられる場を数多く設定する。
- ・これまでの調べ学習を生かした発言になるように助言する。
- これまで調べてきた内容を全員で情報共有できるように、新聞づくりを行う。
- 子ども達のお祭りに対する追究意欲を高めるために、氏子代表の方にお話をさせていただく。
- 祭りにかかわる人や観光客とのかかわりを通して、祭りのよさや課題を把握できるように、事前にワークシートを配布する。
- ・感想の交流を通して、多くの人がお祭りを支えていることを確認する。

生かす
7時間

- ・お父さんに聞くと、組の仕事が3年に一度から毎年になってきて、かなり大変になってきているよ。
- ・祭りを支える人たちが減ってきて、高齢化しているからこのままでは、大提灯が途絶えてしまう。
- ・24年は6万人だったけど、25年以降は10万人集まっているよ。そして今年も10万人を超えているから大丈夫。
- ・氏子さんの数が減ってきていて、一番少ない組は42しかいなくなっていて、このままでは危険だ。

このままで、大丈夫？どうなる大提灯祭り⑮

- ・お祭り当日は県外からもたくさんの人が来ていたし、外国の人も来ていたから大丈夫。
- ・ネットで調べたら、24年度は6万人だったけど、25年以降は毎年10万人以上の観光客が大提灯祭りに来ているから大丈夫。
- ・南部小学校でアンケートを取ったら、みんな来ていたし、楽しんでいたので大丈夫。
- ・総代さんの話では、高齢化が進んでいて、このままでは、2025年には、大提灯が大変なことになってしまう。
- ・ふるさとの誇りの大提灯祭りがこのままではあぶない、なんとかしなければ。

大提灯祭りのために私たちができることを考えよう⑬⑱⑳

- ・南部小の子たちにも大提灯のことを知ってもらえるように、新聞を発行したいな。
- ・地域の人たちに祭りの現状を知ってもらうような回覧板をつくりたいな。
- ・保存会が行っているボランティア募集のパンフレットを私たちがつくり、支えていこう。
- ・提灯をあげるための技術を取材して、次の人たちが学べるようにしたいな。
- ・5年生に提灯祭りの良さを伝えて、来年以降もPR活動が継続できるようにしたいな。
- ・小さい子たちにもわかるように、歴史絵本をつくって学びの館においてもらおう。

大提灯祭りのために私たちができることを話し合おう㉑㉒本時

- ・僕たちは、大提灯祭りを支える技術を取材して、技術や知識を次の人たちにもつなげたり、知らない人にもわかるようにまとめていきたいと思います。
- ・△△君が言ったように学びの館に置くだけではなく、学びの館の中や保育園で、読み聞かせをすることで、もっと興味をもってもらえるようになるね。
- ・□□さんがいったように、祭りの現状だけではなく、歴史や由来、見どころも入れた内容の回覧板にして、もっと多くの人に知ってもらって支える人が増えるようにしていきたいな。

大提灯祭りのためにできることを実践しよう㉓㉔㉕

- ・大提灯保存会の行ってのボランティア募集のパンフレットが完成したよ。公民館や市役所に置いてもらおう。
- ・僕たちが調べてきた覆い揚げのひみつをまとめたリーフレットが一色町の学びの館に置いてもらえることになったよ。
- ・私たちが作った絵本を南部保育園で読み聞かせをしたら、とても喜んでくれたよ。これからも、大提灯祭りが続いていくように、活動していきたいな。

○児童が興味を持ったことを調べるように、時間と場を設定し、追究の時間を保証する。

○ゲストティーチャーや資料を利用することで、大提灯祭りに内在する課題をとらえることができるようにする。

・前時にとらえさせた課題に対する解決策ごとにグループを編成する。

○聞き手を意識した提案ができるように、事前にルーブリックを提示する。

○子ども達が責任感をもった話し合いを行うことができるように氏子代表の方を話し合いに招く。

・子ども達のアイデアを実践することができるよう時間に時間と場所と機材を事前に準備する。

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>子ども達が、まちの宝である『大提灯祭り』に愛着をもつことができるように、子ども達が一次資料に触れたり、現地調査やインタビューを繰り返し行ったりすることができるようにした。</p> <p>子ども達が自ら課題を見つけ、解決策を考えていくことができるように、前述の一次資料や話し合いの場を単元の途中に設けることで、問題解決型の学習となるようにした。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>子ども達にとって大提灯祭りは、たくさんの人が集まり、屋台が出る楽しみなお祭りであるものの、歴史や由来、込められた願いなど知らないことも多かった。文献等はあるものの、専門的な内容のものであったため、地域の専門家にインタビューすることで、子ども達にもわかりやすく理解できるようにした。</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none">・「人が集まり、屋台の出る楽しいお祭り」という認識から。高橋提灯の方々や氏子さんや、宮司さん、大提灯保存会の方々とかかわることによって、「たくさんの人の思いが込められた故郷の誇りの祭り」と考える児童が増えた。・「故郷の誇りである祭り」のために、自分たちにできることを考え、実践していきたいと考える児童が育ってきた。
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>単元を始めた当初、別地域から転任したこともあり、自分自身が一番大提灯祭りについて知らない状態であった。地元の方へのインタビューなど、教材研究を進めていくうちに、支える人々の熱い思いに触れることで自分自身が大提灯祭りの魅力を強く感じるようになってきた。そして、児童とともに大提灯祭りのためにできることを考え、実践していきたいという思いを持つことができた。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <p>児童は大提灯祭りのためにできることを考え、実践していきたいと考えているが、児童だけでできることには限界がある。そして、大提灯祭りは様々な人（地域、市、県、氏子など）に支えられながら、地域のお祭りとして続けられている。そのため、課題を解決するためには、今後も継続して連携をとっていく必要がある。</p>